

北大路魯山人展



「色絵染付鮑形鉢」昭和10年代
世田谷美術館蔵
—北大路魯山人展より—

夏休み親子で楽しむ美術館 アートde暑中見舞い

- 花鳥の美
- 琳派Ⅱ
- 石川の工芸Ⅱ
- 夏の優品選Ⅰ

- 8月の企画展示室
- ミュージアムレポート
- 展覧会回顧
- 8月の行事予定
- 企画展Topics
- アラカルト ただいま展示中



歌川国貞「蛭狩当風俗」
—アートde暑中見舞いより—

北大路魯山人展

主催／北陸中日新聞、石川県立美術館、石川テレビ放送
 後援／石川県、金沢市、金沢市教育委員会、エフエム石川
 協力／世田谷美術館(公益財団法人せたがや文化財団)、石川県九谷焼美術館

7月25日(土)～8月23日(日) 会期中無休

1F企画展示室

明治時代の末期から昭和にかけて、陶芸・篆刻・書・日本画・漆芸・料理など多岐に活躍した芸術家・北大路魯山人(一八八三—一九五九)。特に陶芸の分野では、自由奔放な作陶で知られるとともに、織部や志野、黄瀬戸など安土桃山時代の陶器の進化を再発見するなど、大きな足跡を残しました。また、会員制の高級料亭「星岡茶寮」を主な舞台に料理家・美食家としても活躍、素材の味を大切にすると和食の粋と陶芸の美の融合に挑みました。

若いころは書と篆刻の作家だった魯山人が、陶芸と食の道を志す原点は北陸にあります。書の才能を見初めた金沢の資産家・細野燕台は、大正四(一九一五)年に魯山人を石川県の金沢に食客として招き、料理旅館などの訪問を通じ美食について学ばせるとともに、さまざまな文人や粹人との交流を取り持ちました。その中でも山代温泉の九谷焼窯元・須田菁華との出会いは、魯山人を作陶の世界に導く契機となりました。

〔関連催事〕

8月9日(日)	7月28日(火)	講演会
「北大路魯山人と塩田コレクション」	「金沢と魯山人」	会場 石川県立美術館ホール 先着二〇〇名 時間 午後2時～午後3時30分 聴講無料(但し本展の入場券半券可)が必要)
	講師 丸岡喜市 (丸岡樹仙堂代表取締役・金沢美術工芸大学非常勤講師)	
	講師 清水真砂 (世田谷美術館教育普及課長兼分館長)	

本展では、魯山人の生涯にわたる創作活動の中から、世田谷美術館所蔵の「北大路魯山人 塩田コレクション」の陶磁器、日本画、書などの作品を中心に、北陸地方にゆかりのある篆刻看板や屏風、磁印なども併せて約二〇〇点を展示します。芸術の分野を問わず活躍した魯山人作品の多面性と業績について、本展の会場である北陸・石川の地が氏に与えた影響にも着目しながら紹介いたします。

◆料金表

一般	九〇〇円(七〇〇円)
高大生	六〇〇円(四〇〇円)
小中生	五〇〇円(三〇〇円)

()内は前売料金、二〇名以上の団体料金です。
 当館友の会会員は、会員証の提示により団体料金に割引されます。

◆お問い合わせ

北陸中日新聞事業部
 電話：〇七六一―二三三―四六四二
 (FAX：〇七六一―二三三―四六四六)



「樫文鉢」1940年頃 世田谷美術館蔵



「雲錦鉢」1940年 世田谷美術館蔵



「日月椀」1937年 世田谷美術館蔵

琳派Ⅱ

7月24日(金)～9月8日(火) 会期中無休

花鳥の美

7月24日(金)～9月8日(火) 会期中無休

今回は、点数は少ないのですが俵屋宗達とその後継者・俵屋宗雪、そして喜多川相説の名品を展示します。宗達では、まず「光悦色紙貼交秋草図」(県文)が注目されます。能書家としても知られた本阿弥光悦が、和歌などを揮毫する料紙を制作することは、宗達の工房の重要な仕事でした。本作は、その光悦と宗達の一連の協同作業の終盤に位置付けられるもので、いくつかの色紙には、やがて画家として独立した活動を展開する、宗達のあふれる才気が感じられます。そして善美をつくした造形が功德となると説く、法華経信仰に立脚した美意識が、卓越した裝飾技法によって独自の表現世界を生み出した「横檜図」(県文)は、宗達晩年

の力作として近年ますます評価が高まっています。この宗達の後を継いだのが、宗雪でした。加賀藩三代藩主・前田利常は、四女の富姫が八条宮家に嫁いだ際に、八条殿内に御内儀御殿を造営し、その襖絵を宗雪に描かせるなど、宗雪を重用しました。しかし「群鶴図」(県文)の制作に際し、利常は宗雪に狩野派風の表現を要求しています。こうした点が、京文化の影響を受けながらも明確な一線を画す、加賀文化の特徴といえます。そして宗雪を継いだ相説は、尾形光琳に大きな影響を与えた画家でした。相説も加賀で活躍した画家ですが、「秋草図」(県文)の表現には、五代藩主・綱紀の博物学的関心が強く反映していると考えられます。



県文 横檜図(部分) 俵屋宗達

今回は、「鳥画帖」と「鷹狩図絵巻(夏の巻)」を展示します。四月から六月にかけて開催した企画展「加賀前田家百万石の名宝」では、八年ぶりに重要文化財「百工比照」の大半を公開しました。鑑賞者のアンケートに、その素晴らしさに感動されたとの声がたくさんありました。これは加賀藩五代藩主前田綱紀が、文化や産業の振興のために収集・整理・分類した工芸全般にわたる資料の集大成ですが、このように徹底した方針のもとに収集するという前田家のスタイルが、今回展示する「鳥画帖」にも反映されているように思われます。江戸時代の半ばの博物学的関心への高まりから、大名の間では緻密な写生図に

よる図譜が求められるようになり、ことに鳥類に対する関心が高まり、珍鳥をはじめとした鳥類の写生図は、大名たちの興味を満たすものとして重宝されました。この「鳥画帖」には鶴・雁・鴨をはじめとした様々な鳥類の姿に、木々や草花や水辺の景とともに、克明な観察に基づく緻密で正確な博物学的描写により、鳥類が七十七種、草花が十四種収められています。また、徳川幕府代々の將軍が鷹狩を好んだことから、前田家においても重要な行事となりましたが、加賀藩の御用を務めた六代梅田九栄が描いた「鷹狩図絵巻」には、鷹狩の光景が四季おりおりの風情を織り交ぜながら極彩色で流麗に描かれています。

鳥画帖より「コウホネ」(左)、「真鶴」(右)

アートde暑中見舞い

7月24日(金)～9月8日(火) 会期中無休

学芸員の眼

夏休みのひとときを親子で美術作品に親しんでいただくこうと毎年企画している「夏休み親子で楽しむ美術館」は、平成十五年からはじまりました。近年はゲーム的な要素を含んだ内容や「こんな風に鑑賞するのも楽しいよ」といった鑑賞方法を提案するような内容で、子どもたちや作品鑑賞に馴染みのない方にも作品鑑賞の楽しさを感じてもらおうと企画しています。また、作品をみて自分の感じたことを一言書いて掲示する参加型のコーナーも展示室内に設けております。いろいろな方の感じる心と出会うことが出来る、ひと味違った美術鑑賞の場としてもあわせてお楽しみいただけることでしょうか。今年もこのような参加型コーナーをご用意いたしておりますので、美術の新しい楽しみ方を広げていただけたらと思います。

暑い夏がやってきました。みなさん、いかがお過ごしですか？石川県立美術館の夏休み恒例「夏休み親子で楽しむ美術館」の展示、今年のテーマは「アートde暑中見舞い」です。

暑中見舞いとは、1年の中で最も暑いこの時期に知り合いや友人などに「お元気ですか？夏バテしていませんか？」と相手の様子や健康を気遣って、ご挨拶に行ったり、贈り物したりお手紙を出したりすることです。石川県立美術館からも、みなさんに夏を元気に過ごしていただくこうと、夏にちなんだ作品を取りそろえた展示室をご用意し、アートde暑中お見舞い申し上げます。

日本の夏といえば、花火、スイカ、海水浴…、様々な風物が思い出されます。この展示室では、そんな夏の風物を表した作品や、暑い夏を

楽しむ様子を表した作品、また、暑い夏に涼しさをお届けするような作品を揃えました。

これらの展示室内の作品の中から、夏に負けない元気が出てくる作品、夏の暑さが吹き飛んでいった心地のする作品、また、「夏って、そうだったなあ」と日本の夏に改めて気づき夏の暑さを一時忘れさせてくれる作品など、みなさんの心に留まる作品に出会っていただけることを願っています。

そして、あなたの心に留まった作品を見つけたら、展示室に用意した暑中見舞いに見立てたカードに感じたことなど一言添えて、今度はあなたから石川県立美術館に来て下さるみなさんに、「アートde暑中見舞い」はいかがでしょうか？



宮本三郎「夏の山」

第5展示室

石川の工芸Ⅱ

7月24日(金)～9月8日(火) 会期中無休

多数の工芸作家が活躍する石川県では、日本伝統工芸展、日展、日本現代工芸美術展、光風会展などをはじめとする、さまざまな展覧会が開催され、巧みな工芸技術による独創性にあふれた作品を観ることができ、ます。今回の第五展示室では、石川県にゆかりのある作家たちの作品を通して、現代工芸の多様性を紹介します。

陶芸では、富本憲吉、十代大樋長左衛門、北出塔次郎、三代徳田八十吉といった作家たちの優品を展示ケースに、久世建二、中村錦平、南雲龍による彫刻的な作品をケース外に展示します。久世建二の「落下・痕跡」は、昨年行われた金津創作の森での回顧展でも展示された代表作の一つです。土という素材の持つ特性を、落

コピーから「ケンとメリーの樹」と呼ばれるようになったとか。前景は黄土と緑の鮮やかなコントラスト。中間のポプラを境に、遠景のラベンダーや畑の緑が豊かな色層をなし、わき上がる夏雲と相まって北海道の夏を満喫させてくれるようです。

最後は彫刻部門から現代具象彫刻を代表する作家、中村晋也の《Miserere VI》です。阪神淡路大震災の映像を眼にした作者の「自分にながでさるのか。」との自問から生まれたシリーズの第六作です。そのような制作背景をもつ本作の前に立つと、あのグレゴリオ・アレグリの合唱曲「ミゼレーレ（我を憐れみたまえ）」の敬虔なしらがきこえてくるようです。静かな時間がながれます。

下運動や経過した時間と共に封じ込めた作品で、その後も同じテーマで制作しています。中村錦平「接吻スルノガイイノダ」は、権威として確立した伝統美学としての陶芸とは違ったアプローチで、日本人の心を直接揺さぶるものを追求した作品です。制作から三十年近く経っていますが、その圧倒的な存在感は健在です。

染織では、加賀友禅技術保存会会長となった梶山伸による抽象的なテーマの染色パネル「渺」や、同じく保存会会員であった成竹登茂男の「友禅杉枝文振袖」、金丸水明による鮮烈な意匠の「服飾盛夏果実」や談議所栄二「友禅染いちじく・図服飾」、新収蔵品の堀友三郎「モン・サン・ミッシェル」など、日展出品作五点を展示します。



中村錦平「接吻スルノガイイノダ」

第3・6展示室

夏の優品選Ⅱ

7月24日(金)～9月8日(火) 会期中無休

「夏の優品選Ⅱ」は、絵画・彫刻分野の季節感ある作品や、当館を代表する作品を紹介する展示のパートⅡです。各部門を代表する作品を紹介します。

日本画からは、昨年度寄託された東山魁夷の《瀧》を紹介します。制作は一九五四年、魁夷四十六歳の作です。いまでは誰もが知る画家前期の代表作《道》を発表し四年、風景画家としてのあゆみを固めはじめたころの作品です。作画自体はかざらず、つくりわす。一本の瀧を堂々と描ききっています。東山魁夷の自然に対峙する姿勢がしのばれます。

油画の《丘》は風景画家、村田省蔵の北海道シリーズを代表する一作です。画面右にそびえるポプラは、昭和四十年代に自動車CMに登場し、そのキャッチ

コピーから「ケンとメリーの樹」と呼ばれるようになったとか。前景は黄土と緑の鮮やかなコントラスト。中間のポプラを境に、遠景のラベンダーや畑の緑が豊かな色層をなし、わき上がる夏雲と相まって北海道の夏を満喫させてくれるようです。

最後は彫刻部門から現代具象彫刻を代表する作家、中村晋也の《Miserere VI》です。阪神淡路大震災の映像を眼にした作者の「自分にながでさるのか。」との自問から生まれたシリーズの第六作です。そのような制作背景をもつ本作の前に立つと、あのグレゴリオ・アレグリの合唱曲「ミゼレーレ（我を憐れみたまえ）」の敬虔なしらがきこえてくるようです。静かな時間がながれます。



中村晋也「Miserere VI」

どこでもミュージアム in白峰小学校(学校出前講座)

近年、学校出前講座では、講座を開講し好評いただいた学校の先生方の情報から別の学校での開催につながる事が多くなり、講座への関心が高まっています。今年度も開催校十校の枠に二十一校のご応募がありました。すでに講座を体験した学校からのお申し込みは、鑑賞の楽しさを知った子どもたちにも、新たな作品と出会う場を作ることができる私たちに、新たな作品と出会う場を作ることができる私たちに、子どもたちに鑑賞の楽しさを伝えたいという講座の趣旨から、今年度ははじめての出前講座開催となる学校に入っていた形になりました。六月十一日、今年度最初の講座が白山市立白峰小学校で行われましたが、今後、残り九校の出前講座は芸術の秋に集中的に開催することとなります。



日展石川会展

8月28日(金)～9月8日(火)
会期中無休

日展石川会は、県内在住の三人の日本芸術院会員を初めとする日展所属の作家で構成されています。平成二十三年以来三回目となる今展は、昨秋東京の国立新美術館で開催の改組新第一回日展に出品された大作を中心に百数十点を展示します。

■会場／第7～9展示室

■入場料／八〇〇円(高校生以下無料)友の会は一〇〇円引き

■連絡先／北國新聞社営業事務局内「日展石川会」事務局

電話〇七六一二六〇一三五八一

展覧会回顧

加賀前田家 百万石の名宝

本展は、文化によって地域の独自性を打ち出した加賀藩の文化政策を今日の視点から再評価し、石川県、金沢市の魅力を全国に発信することを趣旨として開催しました。公益財団法人前田育徳会が所蔵する国宝十五件・重要文化財三十五件を中心に、かつてない規模で加賀藩主・前田家の文武二道に関わる歴史的名品を一堂に公開することができたことは、本年三月十四日の北陸新幹線金沢開業を記念し、これからの地域の在り方を展望するうえで貴重な機会となりました。

新年度初めの展覧会ゆえに、本格的な広報が四月にはいつてからという厳しい状況でしたが、本展には全国から約二万三千人の愛好者が訪れ、前田家が推進した文化の真価を再認識したと好評をいただきました。これらも、ひとえに本展開催にあたりご協力をいただいた前田育徳会、北國新聞社、NHK金沢放送局をはじめ関係各位のご高配の賜物であり、ここに改めて深く御礼申し上げます。

アンケートでいただいたご意見につきましては、展示室に至る導線表示など可能な限り迅速に対応しました。作品解説につきましては、たとえば具足櫃の由緒書に「奥村永福に利家が与え、後に綱利(五代藩主)に献上された」とある。」とし、その具足櫃も展示されていたのですが、一部の方には誤植との誤解を招きました。詳しく書くことが、かえって展示作品自体を鑑賞・観察する妨げとなる場合もあることに留意しつつ、図録解説・論文やギャラリートーク、土曜講座などで総合的に展覧会の魅力や作品の価値をお伝えするよう、今後も鋭意努力していきたいと思っております。

没後30年 鴨居玲展 踊り候え

9月12日(土)～10月25日(日) 会期中無休

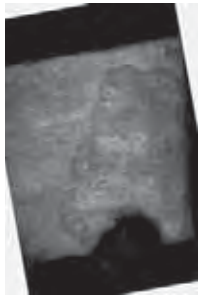
鴨居の代表作「1982年私」を思い浮かべると、あの白いキャンバスには何を描く予定だったのだろうか、あるいは、もう描けないということの象徴だったのだろうかなどと、あれこれ考えてしまいます。でも、鴨居はその後の4年間に赤い道化師『出を待つ』や『酔って候』、『勲章』、そして顔を脱いだ『肖像』など、魅力的な自画像をたくさん残しているのです、後者のもう描けないということではないと思われれます。

実は画中のキャンバスはまっさらというわけではありません。白い絵具が施されて凹凸が激しく、何かを描いたようにも見えるのです。サイズは、人物やイーゼルとの対比でF100号くらい。しかし、このサイズで横型は鴨居の絵にあまりありません。では縦型だったとしたらどうでしょう。

①は鴨居の顔とキャンバス部分、画像のコントラストを強くしたものの。②は90度時計方向に回転したものの。腕を組んだ女性の座像が浮かびます。上下方向につぶれていますが、キャンバスが斜めに設置されているので、圧縮して表現されたとみなせます。③は遠近感をなくすよう縦方向に伸ばしたものの。



①



②



③

鴨居がパリから帰国したのは昭和52年、49歳の時でした。廃兵や深く皺を刻んだ老婆はもういません。新たなテーマは若い女性や恋人達、裸婦など、華やいだものでした。でも、思うように描ききれないと判断し、裸婦の大作は「エチュード」(習作)と名付けるのでした。

「1982年私」は新たな試みに挫折し、自画像へとテーマを収斂していく時に制作したものでした。画中の白いキャンバスは、若い女性を描こうとして描けず、白く塗り込め横にひっくり返して途方に暮れている、そういうストーリーを潜ませたのだとしたらどうでしょう。むしろ、見る側の勝手な思いです。まったくの偶然とする方が自然なのでしょうが、こうした想像を膨らませていけることこそが、名作の証と言えるのではないのでしょうか。ぜひ、鴨居展の会場で、この白いキャンバスを見つめていただければと思います。

兼六園周辺文化の森

サマミミュージアムウィーク

夏の夜、兼六園周辺文化の森各施設にて芸術、文化の催し物を行います。

■夜間開館／八月七日(金)、八日(土)。二十一時まで開館。なお、夜間開館中、二階コレクション展は観覧無料です。

■お問い合わせ／兼六園周辺文化の森活性化推進実行委員会
電話：〇七六―二二五―一三七一

八月の行事予定

■土曜講座	午後1時30分	美術館講義室 聴講無料
29日(土)	魯山人と石川県	寺川 和子 学芸専門員
■キッズ鑑賞講座	午後6時30分～午後7時30分	二階展示室 参加無料
8日(土)	あなたもアートde暑中見舞い	
■ギャラリートーク		
1日(土)	午後3時～午後3時30分	二階展示室 要観覧料
2日(日)	午前11時～午前11時30分	二階展示室 要観覧料

「モン・サン・ミッシェル」

平成2年(1990) 第22回日展 縦145.5×横112.0cm【新収蔵品】

堀 友三郎 ほりともしぶろう

大正13年(1924)～平成26年(2014)



フランスの世界遺産、モン・サン・ミッシェル夕刻の風景を、染色パネルに表した作品です。修道院と周辺の町並みが一体となった、よく知られている姿を画面上部に、下部には島が浮かぶサン・マロ湾の潮の流れを配しており、上部に描かれているのはずの修道院の柱の間から、これらの風景をのぞくという、不思議な構成となっています。

作者の堀友三郎は、透明感のあるインジゴゾール染料を用いた染めと、防染糊でありながら、夢の中のような幻想的でノスタルジックな空気が漂っています。堀友三郎は大阪府生まれですが、父が金沢出身です。昭和十六年多摩美術専門学校図案科に入学し、木村和一に師事しました。その後も独自の表現を追求し、光風会展や日展などの展覧会に入選、受賞を重ねました。昨年逝去した作者が、代表作の一つとしていた本作は、作者の技術と創意が、最も理想的な形で結びついた作品と言えるでしょう。

で画面を覆い、糊を洗い流すことを繰り返して、空気の層が重なったような、奥行きのある空間表現を確立しました。海を隔てた陸地からモン・サン・ミッシェルへ渡り、修道院の中から陸地を眺めた一連の記憶を、多層構造によって画面一枚に表した本作は、現実の風景

次回の展覧会

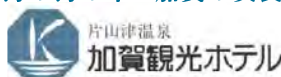
会期:9月12日(土)~
10月25日(日)

	前田育徳会 尊経閣文庫分館	第2展示室	ご利用案内
	特集 芳春院まつ	秋の優品選	コレクション展観覧料 一般 360円(290円) 大学生 290円(230円) 高校生以下 無料 ※()内は団体料金 毎月第1月曜日はコレクション展示室 無料の日(8月は3日)
第3・4・6展示室	第5展示室	第7~9展示室	今月の開館時間 午前9:30~午後6:00 (7、8日は午後9:00まで)
季節を想う・ 風景を謳う	秋の優品選	没後30年 鴨居玲展 踊り候え	カフェ営業時間 午前10:00~午後7:00 年中無休
			8月は無休で 開館していません

広告

片山津温泉
22種のお風呂で
おくつろぎ下さい
<http://www.kagakankoh-hotel.co.jp/>

日本海の海の幸や加賀の美食なら



〒922-0412 石川県加賀市片山津温泉ウ 41
加賀観光ホテル予約センター 受付時間 9時~20時
Tel. 0761-74-1101

石川県立美術館だより
第382号(毎月発行)
2015年8月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>